

令和3年度（2021年度）決算

# とよなかのお財布事情

## （本編）

とよなか SDGs 未来都市

～明日がもっと楽しみなまち～



40万人の  
とよなか  
未来バトン

SDGs to 2030

# 令和3年度の 市の収入と支出

市全体の収入 3,114億円

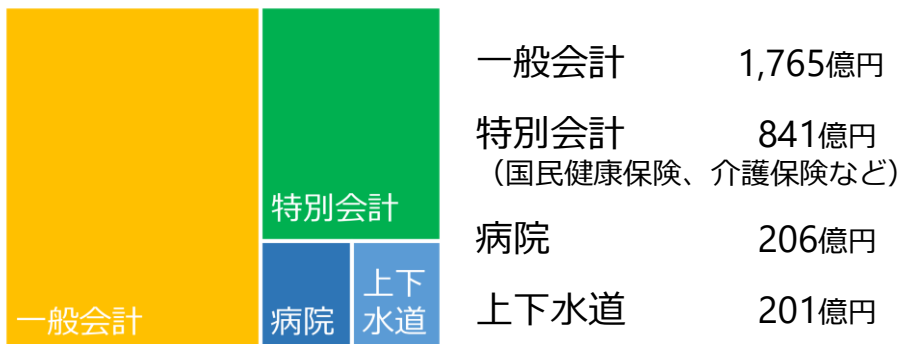
一般会計	1,823億円
特別会計 (国民健康保険、介護保険など)	865億円
病院	217億円
上下水道	209億円



市のお財布には、一般的なお財布（一般会計）と、用途が決まっている特別なお財布（特別会計・企業会計）があります。国民健康保険や介護保険などが特別会計、市立豊中病院・水道・下水道が企業会計です。

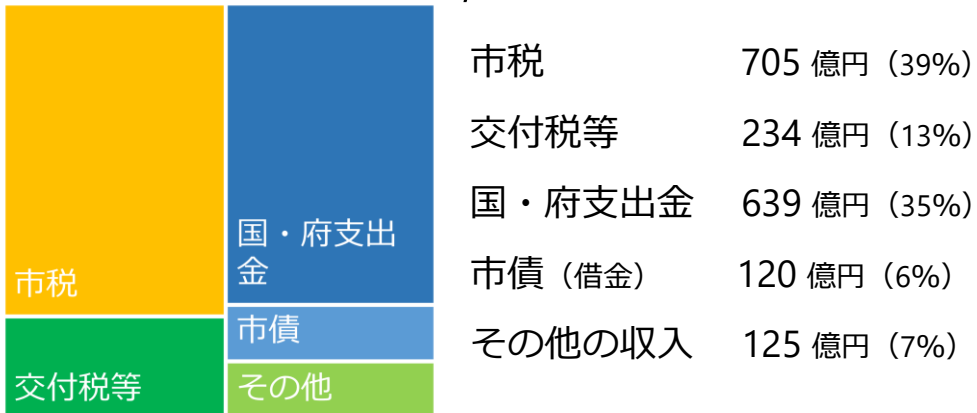
一般会計の収入は市税など、特別会計・企業会計の収入は、国民健康保険や介護保険などの保険料、市立豊中病院の診療報酬、水道・下水道の使用料などです。

市全体の支出 3,013億円



市では、一般的なお財布と特別なお財布を用途によって使い分けて、それぞれの仕事にかかったお金の支払いをしています。特別なお財布は、収入だけではお金が足りないので、一般会計からもお金を受け取っています。

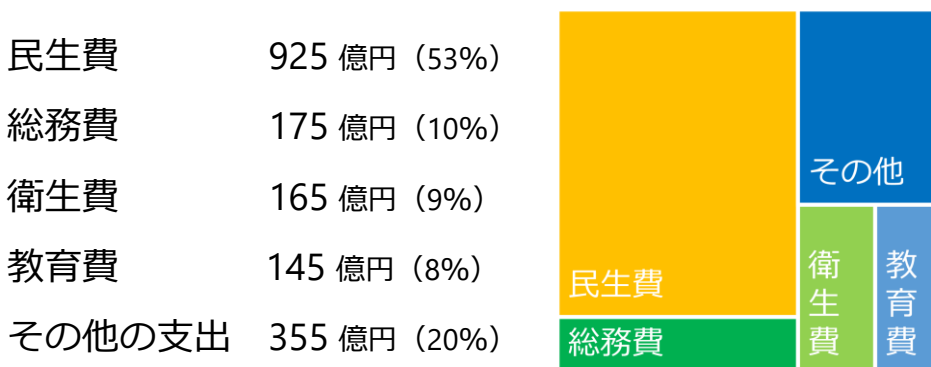
## 一般会計の収入 1,823億円



一般会計に入ってくるお金には、市に納められた税金（市税）や、国や府からの補助金など（国・府支出金）、国や銀行からの借金（市債）などがあります。

令和3年度に市が支払ったお金のうち、約39%が市税、約35%が国や府から受け取ったお金、約6%が借入れでした。

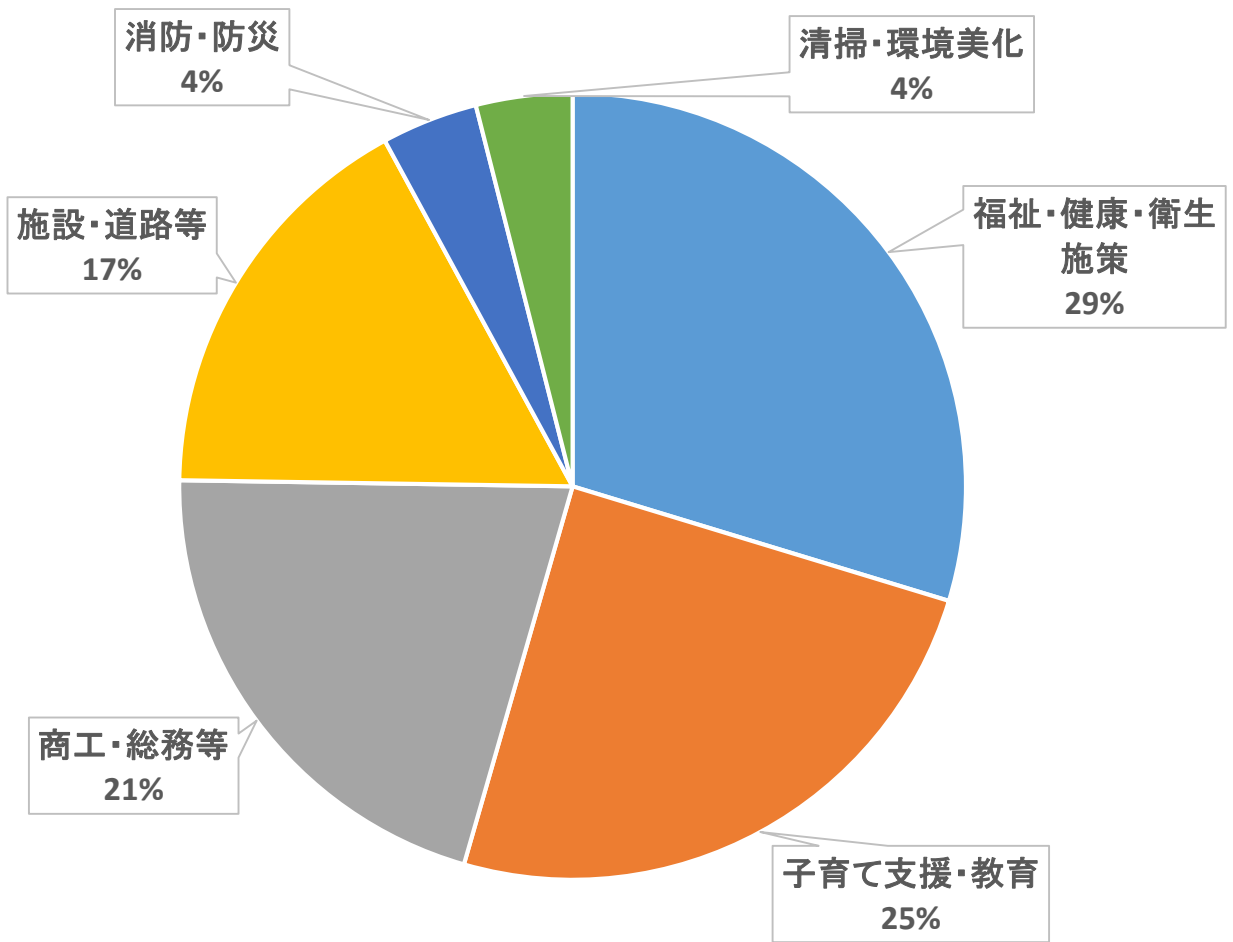
## 一般会計の支出 1,765億円



令和3年度に一般会計から支払ったお金の約53%は、福祉や子育てなどに使ったお金（民生費）でした。

次のページで、市税を活用した支出の内訳について、使われた内容を細かく分けながら見ていきます。

## 市税1万円あたりの支出内訳



一般的なお財布（一般会計等）に入ったお金は、いろいろなかたちで、豊中市を暮らしやすいまちにするために使われています。

具体的な取り組みを見ていきます。

### ●福祉・健康・衛生施策

（介護予防や障害者支援、病院・保健所など）

2,982円（前年度比△100円）

- ・障害福祉サービス費、扶助費支給、特別会計（国保・介護・後期・病院）への繰出等

### ●子育て支援・教育

（待機児童対策や学校関係など）

2,454円（前年度比+10円）

- ・子育て世帯への特別給付金、児童手当、児童扶養手当、子ども医療費助成等

## ●商工・総務等

(産業振興や市役所の運営など)

2,060円 (前年度比+177円)

- ・消費喚起事業、各種基金への積立、人件費等

## ●施設・道路等

(建替や改修工事関係、借金の返済など)

1,712円 (前年度比△65円)

- ・公営企業会計(下水道)への繰出、市営住宅整備事業、公債費の償還等

## ●消防・防災

(消防車や救急車の運用、防災対策など)

416円 (前年度比△11円)

- ・救助工作車等の購入、消防指令業務の共同運用等

## ●清掃・環境美化

(ごみ収集など)

376円 (前年度比△11円)

- ・豊中市伊丹市クリーンランド負担金、ごみ収集業務委託等

令和3年度と令和2年度の比較を行うと、市に納めた税金1万円の内訳では、前年度と継続して福祉・健康・衛生施策、施設・道路等に要する経費の割合が小さくなっている事がわかります。

要因としては、新型コロナウイルス感染症に対する支援策として消費喚起事業や子育て世帯への特別給付金を実施したほか、地方交付税の想定以上の追加交付があった事などにより、後年度の支出増に備え公共施設等整備基金及び財政調整基金へ積立てを行ったことにより、子育て支援・教育、産業振興・商工総務等の割合が大きくなったことなどが影響しています。

(注) 3ページ以降の数値は、総務省が定めた全国一律の基準で計算する統計上の数値(普通会計)で計算しています。  
豊中市の普通会計には、一般会計のほか、2つの特別会計を含みます。

# 支出でできたこと、 作ったもの（財務諸表）

財務諸表は、1年間のお金の動きを整理して、未来に引き継ぐ施設や道路などの資産とその年の市民サービスに使った費用、これからの世代の負担となる負債と、これまでの世代の負担である純資産をわかりやすくするために作るものです。

## 未来に残る施設などの負担（貸借対照表）

<b>資産</b> 7,463億 うち現金預金 80億	<b>負債</b> 1,132億
	<b>純資産</b> 6,331億

施設や道路、預金などの市の資産をどのように形成したかを集計する表です。  
豊中市の現在の資産のうち、これからの負担となる負債の割合は約15%です。

## お金の出入りの集計（資金収支計算書）

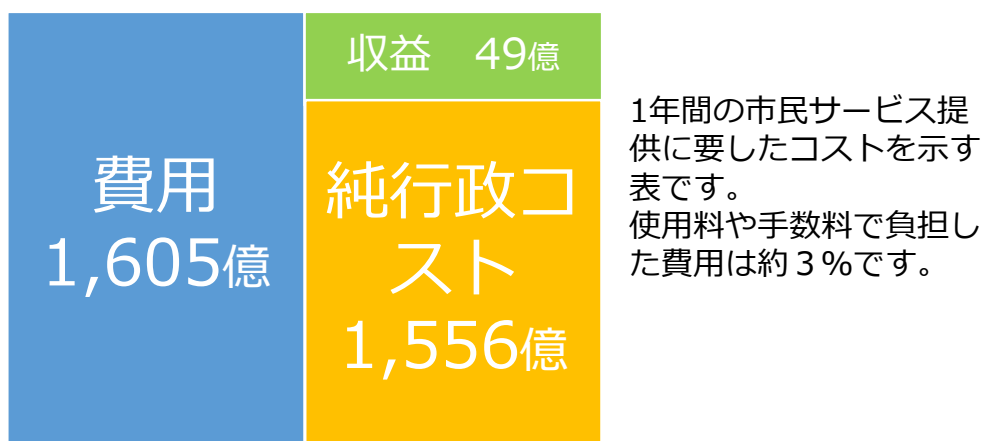
現金の出入りを集計する表です。  
令和3年度に投資活動でうみだした資産は、市民サービスの収支（業務活動）や財務活動の収支で出た余裕分を活用してできたものです。

業務活動収支	103億
投資活動収支	△118億
財務活動収支	22億
前年度末残高	52億
当年度末残高	59億

市の財布から出ていくお金は、市民の安心・安全を維持し、市民が暮らしやすいまちにするために使います。令和3年度の1年間のお金の使い道は、その年度に使ったもの（費用）と、未来にも使えるもの（資産）とに大きく分けることができます。

## 令和3年度の市民サービスのコスト

（行政コスト計算書）



## コストをどう支払ったか（純資産変動計算書）

税金などの財源とコストの差引で、純資産の増減を確認する表です。  
 令和3年度は、純行政コストを税金等の財源でまかなえたため、将来の市民へ引き継ぐ財産（純資産）が増えました。

<b>純行政コスト</b> 1,556億	<b>財源その他</b> 1,636億
<b>当年度末 純資産残高</b> 6,331億	<b>前年度末 純資産残高</b> 6,251億

# お財布診断

財務諸表をもとに、これまでの負担とこれからの負担について、4つの観点から市のお財布を診断します。

## ①未来に残る資産



182

**一人当たり資産 182万円**

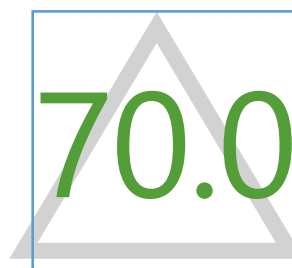
前年度：180万円 中核市平均：155万円

令和3年度の豊中市民の一人当たり資産は中核市平均を上回っています。未来に残る資産は増えていますが、資産はいずれ負担にもなることには注意が必要です。

**資産老朽化比率 70.0%**

前年度：70.5% 中核市平均：64.4%

資産の老朽化の度合い（有形固定資産減価償却率）を示す指標です。中核市平均より高いのは、資産の更新が他市に比べて進んでおらず、今後は更新の費用が必要になることを示しています。



70.0

## ②これまでとこれからの負担の割合



84.8

**純資産比率 84.8%**

前年度：84.9% 中核市平均：71.1%

純資産はこれまでの世代による負担の蓄積であり、資産の比率を示す純資産比率は、中核市平均を大きく上回っています。

**将来世代負担比率 3.5%**

前年度：3.6% 中核市平均：16.3%

固定資産に対してこれからの世代の負担となる借金残高の割合を示す指標です。豊中市は中核市平均を大きく下回っています。



3.5



### ③これからの負担の大きさ



27.8

#### 一人当たり負債 27.8万円

前年度：27.2万円 中核市平均：45.0万円

令和3年度の、豊中市民の一人当たり負債（これからの負担）は27.8万円でした。負債が少なく資産が多いので、施設や道路の更新にかかるお金が今後増える可能性を示しています。

#### 基礎的財政収支 72.7億

前年度：41.2億 中核市平均：32.0億

業務活動収支（市民サービス）と投資活動収支（資産形成）のバランスを示す指標（プライマリーバランス）です。地方交付税の追加交付や税収増により令和3年度は大幅に増加しました。



72.7

### ④行政サービスの効率性



38.1

#### 一人当たり行政コスト 38.1万円

前年度：44.1万円 中核市平均：39.4万円

行政コストが市民一人当たりいくらかかっているかを示す指標です。前年度に比べてコストの減少が見られ、中核市平均を下回っています。

## 総合評価 おおむね順調、今後のかじ取りが重要

お財布診断では、ほとんどの指標は中核市平均と比べても良好ですが、資産老朽化比率が比較的悪い状態が継続しています。

このことは、これまでと同じように資産の維持・更新等にお金をかけることは難しいことを示しています。また、高齢化等に伴い、市民サービスの費用の上昇が見込まれています。

社会経済情勢の急激な変化にも対応できるよう、一人当たり資産や純資産比率、将来世代負担比率等の指標を良好に保つ必要があります。

# お財布の今後

お財布診断では、令和3年度の結果は「おおむね順調」でしたが、将来への負担について課題があることがわかりました。豊中市がずっと住み続けられるまちであるためには、市民のみなさんと行政が一緒になって、資産の持ち方やお金の使い方を考えていく必要があります。

## 資産のこれから 未来に残す施設や道路

豊中市の資産は昭和40年代に整備したものが多く、老朽化が進んでいます。施設やインフラの維持・更新の費用はこの先、年間平均で約40億円増える見込みです。

平成30年度は大阪府北部地震や台風第21号などで豊中市も大きな被害を受け、災害関係で約24億円を支払いました。もし、熊本地震レベルの震災が大阪で発生すると、50億円程度の支払いが発生することになります。



## 費用のこれから 各年度の市民サービス



今後も少子高齢化が進んでいくことから、医療・介護や子育て支援に使われる社会保障関係経費は年平均5%程度増加しており、今後も同じ傾向が続くと考えられます。一方税収の伸びは限られる見込みで資産形成とのバランスが求められます。

## 選んで残す、選んで使う お財布診断と日ごろの暮らし

お財布診断から、施設などを今と同じように続けると未来の負担が増えたり、生活を支えるサービスの費用が増えると将来の余裕が少なくなったりするという、豊中市の今の状況がわかります。

今のお財布の状況と未来の負担がどう結びついているかを市民間で共有しながら、施設の使い方を考え直すことや、災害に備えて市も一定のたくわえを持っておくことが必要です。



## 暮らしやすい豊中でありつづけるために

お財布を「おおむね順調」に保つことで、市民の負担が増えすぎないようにしつつ、福祉・健康や子育て支援などの市民サービスを維持することができます。そのためには、ひとりひとりのものの見方や考え方を少しずつ変えることも大切です。



健康づくりのために歩く距離を増やす。防災意識をさらに高め、日ごろの備えを見直す。生活スタイルを見直してごみを減らす。クラウドファンディングに参加するなど、できることを少しずつ持ち寄ることが、将来に渡ってみんなが暮らしやすい豊中市をつくる第一歩です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



令和6年（2024年）2月改訂  
豊中市財務部財政課